

2022 年 7 月

P1803

Self-Reinforcing Scarcity 自己強化型の品不足

Relevance:

Infrastructure

Organization

Talent

Creation

Marketing

Timing:

Initiate

Monitor

Watch

By Katerie Whitman (Send us [feedback](#))

Description

高所得の国々はこれまで、安価な資本、継続的な景気拡大、豊富にある低コストの製品とサービスを享受するかつてない時代を経験してきた。これらの条件が現在、いずれも同時に反転する様相を呈している。資本はより高価になり、経済は景気後退の兆候を示し、製品やサービスのコストは急騰している。

世界はこのような変化をかつて何度も乗り越えてきたが、現在の状況は過去のケースよりはるかに複雑で絡み合っている。自己強化型の体制破壊に陥る可能性ははるかに高まっており、チップ不足が自己増殖的になる混乱の兆候が、半導体業界で既に現れ始めている。

Abstracts that Inspired This Pattern

SC-2022-06-01-038 — Global Chip Shortage's Latest Worry: Too Few Chips for Chip-Making

チップが入手困難になったことは、自動車生産に打撃を与え、電子機器の価格高騰を招き、世界各国の首都でサプライチェーンの懸念をかき立てたが、今新たにチップを製造する機械に必要なチップが足りないという問題に直面している。

SC-2022-06-01-044 — The Era of Cheap and Plenty May Be Ending

グローバリゼーション拡大の 30 年間に、多くの商品が豊富に供給され、価格の引き下げが実現した。しかし、covid-19 パンデミックの間に自動車、機器、食料、燃料、家具等の製品の価格上昇が常態化し、ロシアのウクライナ侵攻後に加速した。新しい時代がどれくらい続くかは、グローバリゼーションからの脱却が強まるかどうかにかかっていると考えられる。

SC-2022-06-01-092 — Rising Interest Rates Threaten the Transition to Clean Energy

金利上昇と市場の低迷は、開発者の借入コストが膨らみ、貸し渋りにも直面するため、クリーンエネルギーへ移行する上での最新の脅威である。

SC-2022-06-01-006 — Emerging Economies May Be Approaching a Lost Decade

金利上昇、インフレ、地政学的混乱が新興経済国を打ちのめしている。パンデミック後の展望の行方が注目され始めるにつれ、世界の貧困国における低成長、繰り返される金融危機、社会不安という失われた 10 年は、ますます現実味を帯びてきている。

本トピックスに関連する Signals of Change

- SoC1281 人材不足
- SoC1257 供給の不足
- SoC1247 加速する水の危機

関連する Patterns

- P1787 新規フードテックは飢えを止められるか?
- P1781 不足に備えた計画
- P1699 シリコンチップの変革